

図書館だより

令和6年11月

山形西高等学校教務課

図書館



令和6年度 山形県立山形西高等学校 教養講演会



演題：「ひとりの明日を変えるこども食堂」

日時：10月29日（火）13:40～15:10

場所：本校体育館

講師：^{しづや まさと} 渋谷 雅人 氏

渋谷 雅人(しづや まさと)氏

認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ 理事

1967年 山形県山形市生まれ

1986年 山形東高校卒

1987年 大田区下丸子シューターズサッカークラブコーチ

1991年 慶應義塾大学(法)卒

住友商事株式会社入社

2015年 住友商事東北株式会社 取締役

2016年 こども食堂との出会い(仙台)

2017年 50歳で早期退社

2020年 ファンドレイジングスクール4期修了

全国こども食堂支援センター・むすびえに参画

マイケルボルダック認定プロコーチ

VIAファシリテーションアドバンスコース修了

一般社団法人 日本英語コーチ連盟 認定ジュニア英語コーチ

魔法の質問認定講師

第9回プラチナ・ギルド・アワード受賞



「ひとりの明日を変えるこども食堂」と題して、認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ理事 渋谷雅人さんよりご講演いただきました。

「こども食堂」という言葉は耳にしたことはあるけれども、どこか遠い場所にあるような感じにとらえていた生徒が多かったようですが、お話をお伺いし「こども食堂」のイメージがガラリと変わったようでした。

渋谷さんは山形市のご出身で大手商事会社を早期退職され現在のお仕事をされています。渋谷さんがなぜ「こども食堂」に関わるようになったのか、どのような思いを抱きながら支援の輪を広げていらっしゃるのか、生徒たちはしっかりと受け止めていたようです。

生徒の感想より（抜粋）

教養講演会を終えたあと、私は今までこども食堂の存在意義やそのあり方への認識を履き違えていたなと感じました。こども食堂は誰でもいいみんなの居場所。渋谷さんのお話を伺ってこども食堂を身近に感じる事ができました。渋谷さんのお話のなかで、「助けを求められて助けられない大人はいない。でも助けを求めらることもに接する機会が無い。」と仰っていたことがとても印象に残りました。確かに困っていることを訴えられたらどんな人でもきっと手を差し伸べるはずだと思います。ですがその困っている人、助けを求めている人に気づけていない。それが今の日本社会の現状だと感じました。また、今のように困っている人と接することのないまま生活していくと、周囲の SOS に気づく力がどんどん鈍ってってしまうのではないかと思います。そんな現状を変えるために、まずは自分の身の回りに目を向けて、地域の困っている人に声をかけることから実践していきたいと思いました。また今回のご講演でこども食堂のことだけではなく、渋谷さんの生き方についてたいへん勉強になることを学ばせていただきました。

人生は1度きりだし、いつ終わるかもわからない。自分の人生を後悔のないように、やりたいことを見つけて夢に向かってまっすぐ生きていきたいです。そして今回の講演でこども食堂に興味を持ったので、自分でも将来何らかの形でこども食堂に関わって地域のために働きたいと思いました。私に1歩を踏み出すきっかけとなるような素晴らしい講演を聞く事ができ、大変いい経験になりました。（1年生徒）



私は今回の講演を聞いて、こども食堂に対してのイメージが大きく変化しました。こども食堂には地域活性化や子育て支援、高齢者の健康づくりなどの様々な役割があり、子どもだけではなく誰でも行って良い場所であること、また多世代交流の場となっていることを知りました。

以前、母が突然入院することになったとき、学校帰りに姉と二人で買い物に行き、僅かな知識と慣れない手つきで料理やお弁当を協力して作りました。親戚が料理を届けてくれた日もありましたが、家事の忙しさもあり、料理まで手が回らず冷凍食品を食べる日もありました。今回の講演を聞いて、あのときなぜこども食堂にいかなかったのだろう、と強く思いました。もし、あのときにこども食堂のことをもっと理解していたら、慣れない生活の中の希望になったに違いありません。

私が考える、「こども食堂」というムーブメントを突き動かしているものは、「明日への希望」だと思います。どんなに大変な日も美味しいご飯を食べると笑顔になる。それは明日への希望になる。すごく単純なことかもしれないけれど、私も誰かの希望になれるような人になりたいと思いました。

素晴らしい講演、ありがとうございました。（1年生徒）

